

広報 よりい

.....町広報誌を振り返る.....

広報よりい800号まで町広報誌のバックナンバーを紹介するとともに町の歴史を振り返ります。今回は昭和48年12月25日に発行された町広報誌の中から「祭ばやし」の記事を紹介します。

寄居の祭ばやしの歴史について、茅町の山車「諫鼓鶏」の写真と共に紹介されています。

記事の冒頭には「江戸神田の住人より『神田ばやし』を六供の清水和三郎翁が習得され、これを基にして寄居の祭ばやしの形態が確立し、これを各町の子弟に伝習させたもので、各町各区共に明治時代から大正にわたりきわめて盛大に行われて来ました。」とあり、現在でも寄居玉淀水天宮祭や寄居秋まつりで奏でられる祭ばやしが古くから伝わるものであることが

分かります。この祭ばやしは、明治29年ごろから「神田囃子」と呼ばれ始めたと考えられており、戦中戦後の継承が困難な時期を乗り越え、地元の方が伝承に努められました。

昭和38年には、寄居の祭ばやし文部省（現在の文部科学省）指定の小学校高学年用教材となり、コンピアレコードで録音され、全国の小学校に配布されました。このことを機に、茅町では「茅町神田囃子保存会」を設立し、現在も保存会の方々を中心に後継者の育成を行っています。

また「神田囃子」は、昭和42年2月16日に町の無形文化財に指定されています。

ピックアップニュース 祭ばやしの花車



1973 12月
221号

●発行／埼玉県大里郡寄居町役場 ●編集 総務課 ●昭和48年12月25日発行



私は茅町神田囃子保存会で指導員の一人として「神田囃子」の後継者の育成を行っています。保存会では、お祭りの1カ月前から、子どもたちを集め、練習を開始し、お祭りが近づくところば毎日練習を行います。私自身も、小学生のときからお囃子をはじめ、大人たちの背中を見ながら練習に励みました。子どもながらお祭りで山車に乗り、太鼓を叩くと、茅町の一員として誇らしかったのを覚えています。代々伝わる「神田囃子」を通じて、この町が重ねてきた歴史を子どもたちにも感じてほしい、先人たちの想いを次世代へ繋いでいきたいと思います。



福島正幸さん
(茅町)

INTERVIEW
代々伝わる神田囃子
次世代へ繋いでいきたい

山車の飾り置き

11月7日、市街地で山車の飾り置きが行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、山車の巡行等の催しは中止となりましたが、各町の豪華絢爛な山車が飾られ、祭ばやしが奏でられました。

寄居町の主なできごと(昭和48年)

- 2月 立ヶ瀬集会所完成
- 3月 町営住宅平倉団地
(第2期)完成
- 12月 運動公園工事着手
第1回産業祭開催